



# MaaS日本版ー開発・活用と地域活性の戦略

～国の推進施策と自治体・交通事業者・地域の連携、プラットフォームの構築・実装～

- 定価：5,445円(税・送料込/本体4,950円)
- シンポジウム参加者特典：**4,500円**(税・送料込)
- 体裁：A4版/222頁 ●発行：2019年10月4日

【編集・執筆】 吉田 樹 / 福島大学経済経営学類准教授、国土交通省「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」委員 (所属は執筆時)  
 【執筆】 城福 健陽 / 国土交通省総合政策局公共交通政策部長(現・海事局次長) 藤垣 洋平 / 小田急電鉄(株)経営戦略部モビリティ戦略プロジェクトチーム  
 阿部 政貴 / 西日本鉄道(株)自動車事業本部計画部計画課長(現・経営企画部課長) 牧村 和彦 / (一財)計量計画研究所理事兼研究本部企画戦略部長

【本書を推薦します】 中村 文彦 / 横浜国立大学副学長 森本 章倫 / 早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授 清水 弘子 / NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク理事長



# 超高齢社会の移動手段の確保・開発戦略

～ウルトラ高齢・労働人口減少時代のバス・タクシー活用と市民参加の方策～

- 定 価：5,445円(税・送料込/本体4,950円)
- シンポジウム参加者特典：**4,500円**(税・送料込)
- 体裁：A4版/198頁 ●発行：2018年7月25日

【執筆】 溝端 光雄 / 自由学園最高学部講師、元東京都老人総合研究所室長 三星 昭宏 / 近畿大学名誉教授、関西福祉科学大学客員教授  
 吉田 樹 / 福島大学経済経営学類准教授 鈴木 文彦 / 交通ジャーナリスト

【本書を推薦します】 中村 文彦 / 横浜国立大学副学長 久保田 尚 / 埼玉大学大学院理工学研究科教授 鬼塚 正徳 / NPO法人せたがや移動ケア事務局長



# タクシー・イノベーションと乗務員不足対策への挑戦

～ライドシェアの先を見据えた経営改革とサービス開発～

- 定価：5,170円(税・送料込/本体4,700円)
- シンポジウム参加者特典：**4,500円**(税・送料込)
- 体裁：B5 版/170頁 ●発行 2018年7月25日

【執筆】 貞包 健一 / (有)三ヶ森タクシー代表取締役(北九州市) 【前書き】 大井 尚司 / 大分大学経済学部准教授

【本書を推薦します】 山内 弘隆 / 一橋大学大学院経営管理研究科教授 吉田 樹 / 福島大学経済経営学類准教授 鬼塚 正徳 / NPO法人せたがや移動ケア事務局長

□会場ー剛堂会館・会議室(東京都千代田区紀尾井町) □メディア参加

□参加・申込み  
 ■参加費ー私費参加：9,000円(個人負担での参加) □メディア参加とは、地方圏で参加が難しい方や当日所用のある方等を想定し、シンポジウム開催後に講演資料と講演収録CDをお送りする参加形態です。  
 公費参加：18,000円(行政・企業等の業務参加) □メディア参加申込みの方は、研修会終了後にCD(講演収録・音声のみ)及び資料と請求書をお送りいたします。

	当日参加	メディア参加
私費参加	9,000円	11,000円
公費参加	18,000円	20,000円

■参加費の支払い  
 ・私費参加者には受講証を送付しますので、確認後、右記口座へお振込み下さい(請求書は発行しません)。  
 ・公費参加者には受講証と請求書等を送付しますので、開催までに右記口座へお振込み下さい。

■支払い方法  
 みずほ銀行麹町支店 普通1159880  
 三井住友銀行麹町支店 普通7411658  
 三菱UFJ銀行神田支店 普通5829767  
 郵便振替:00110-8-81660 口座名: 地域科学研究会

あすの街と村を考える 地域科学研究会 東京都千代田区平河町2-3-10ライオンズマンション平河町101  
 TEL03(3234)1231 FAX03(3234)4993 〒102-0082

お申し込み・お問い合わせ FAX：03-3234-4993 Email：machi@chiikikagaku-k.co.jp 年 月 日 【申込書】

■シンポジウム 『新しい公共交通の構築』 □当日参加(□私費参加 □公費参加)  
 □メディア参加(□私費参加 □公費参加)

■書籍の購入(参加者特典(割引き)) □『MaaS日本版ー開発・活用と地域活性の戦略』 □『超高齢社会の移動手段の確保・開発戦略』  
 □『タクシー・イノベーションと乗務員不足対策への挑戦』

勤務先	連絡担当者
所在地〒	TEL
参加者氏名	所属部課役職名
FAX	
Email	
〈通信欄〉○を付けて下さい	
支払方法(請求後の銀行振込・郵便振替)	
必要書類(納品書・請求書・見積書・領収書)	
請求書等宛先名:	

※ご記入いただいた個人情報、当会の活動(セミナー・出版等の申込受付、連絡、請求、案内等)のみに使用させていただきます。

# 新しい公共交通の構築ー公共交通の再定義と活性化戦略

～ポストコロナ時代の鉄道・バス・タクシーー持続可能な地域と交通～

- アフターコロナ時代に向けた地域交通政策のり・デザイン
- 新しい公共交通のソフト・ハードー公共交通の再定義と活性化戦略
- 乗合バス事業共同経営と湯沢版MaaS「Yuumo」の活用と持続可能な仕組みづくり
- 潜在需要創出型のバス・鉄道運賃、公共交通を地域で支える自治体税制・財政

2022年2月10日(木) 10:00～17:00 剛堂会館・会議室(東京・千代田区)

【講師陣(講演順)】

- 倉石 誠司 氏 / 国土交通省総合政策局地域交通課長
- 細谷 精一 氏 / 前橋市未来創造部参事兼交通政策課長
- 宇都宮 浄人 氏 / 関西大学経済学部教授
- 佐藤 主光 氏 / 一橋大学大学院経済学研究科教授 滋賀県税制審議会副会長
- 小美野 智紀 氏 / (株)ドーコン東日本営業本部東京支店
- 中村 文彦 氏 / 東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授
- 吉田 樹 氏 / 福島大学経済経営学類准教授

【後援】(一財)日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)  
 【協賛】(株)ヴァル研究所 関東バス(株) セントラルコンサルタント(株) (株)シーイーシー

【企画】ニューノーマル公共交通推進会議(事務局(株)地域科学研究会)

《ニューノーマル公共交通推進シンポジウムを応援します》



【開催にあたって】 中村 文彦

本シンポジウムでは、コロナ禍を受けてニューノーマルな世界を再構築していく中で、これまで大きく打撃を受けた地域の公共交通の再生、強化の方向性を議論する。同時に生じた情報通信技術の革新的な普及およびそれと連動した新しい移動サービスの出現も受け、ある程度の方向性はみえてきているとはいえ、課題も多い。地域を支える公共交通とはなんなのか、地域で支えるべき移動とはなんなのか、利用者数回復が期待できない中で持続させるための財政面での課題をどう乗り越えるのか、これらについて、新技術をどのように組み込んでいくのか、といった観点で、最新の動き、課題を議論していく。

2021.12.20

時	講義内容
I [基調報告] 地域の暮らしを創るサステイナブルな地域交通の実現 ～アフターコロナ時代へと向かう『地域交通3.0』～	
10:00 ～ 10:45	1. 「地域価値創造」の視点について 国土交通省総合政策局地域交通課長 2. アフターコロナ時代の地域のひとの暮らしについて 倉石 誠司 氏 3. 「葉の交通」を中心とした政策のR・デザインについて ～『共創』と『ファーストワンマイル』～
II [報告] 新しい公共交通構築への挑戦	
10:55 ～ 11:20	1. 前橋地域における乗合バス事業共同経営の取組み(群馬) 前橋市未来創造部参事兼交通政策課長 1. 前橋地域における地域課題・背景 細谷 精一 氏 2. 共同経営に取り組む経緯、目的、概要 3. 今後の事業者連携の取組み
11:20 ～ 11:45	2. ポストコロナの公共交通とプライシング ～潜在的な需要を創出するこれからのバス・鉄道運賃のあり方～ 関西大学経済学部教授 宇都宮 浄人 氏
12:45 ～ 13:10	3. 公共交通と都市のコンパクト化 ～税制・財政の役割を中心に～ 一橋大学大学院経済学研究科教授 滋賀県税制審議会副会長 佐藤 主光 氏
13:10 ～ 13:35	4. 湯沢版MaaS「Yuumo」の挑戦(新潟) ～路線バス・送迎バス・タクシーの活用と持続させる仕組みづくり～ (株)ドーコン東日本営業本部東京支店 小美野 智紀 氏 1. なぜ湯沢町でMaaSに取り組むのか～課題認識からの「MaaS設計」～ 2. MaaSを逆からアプローチしてみた～Yuumoの特徴とポイント～ 3. 地域でお金が回る仕組みを作りたい～Yuumoを自律的に持続させる仕掛け～ 4. 小さく生んで大きく育てるための体制づくり～体制づくり≒まちづくり～
III [基調講演] 新しい公共交通を支えるソフトとハード ～公共交通の再定義と活性化戦略～	
13:45 ～ 14:35	東京大学大学院新領域創成科学研究科特任教授 中村 文彦 氏 コロナ禍を経たこれからの時代の都市の公共交通のあり方について、世界の最先端の潮流、新しい技術の社会への展開、新しい考え方の発想等を含めて、課題を整理する。 1. はじめに 現在の状況の整理 2. 公共交通の再定義について～運輸事業の定義ではなく、市民アクセスの視点から～ 3. 都市を支えることの意味 余韻都市の発想 4. 価値観の多様性の意味 移動の価値の再整理 5. ニューノーマルの先へ～移動を豊かにするピークレスな街づくりの発想～ 6. MaaSの経験の昇華 データ連携でより包括的かつ戦略的に 7. 地域の活力を持続させる公共交通の未来へ ≪質疑応答≫

時	講義内容
IV [パネル討論] 公共交通再構築—生き残りから活性化への戦略	
14:35 ～ 14:55	□ 問題提起—ニューノーマル時代の公共交通 福島大学経済経営学類准教授 吉田 樹 氏 1. 当面の需要減を前提としたサービス設計—問われる「見せ方」と「魅せ方」 2. 公共交通のコストシェアリングを再考する好機 3. 付加価値を需要に変える—ニューノーマル時代に「なじむ」MaaSへ
15:15 ～ 17:00	[パネル討論] 公共交通再構築—生き残りから活性化への戦略 [司 会] 吉田樹氏(福島大学) [パ ネ ラー] 倉石誠司氏(国土交通省)、細谷精一氏(前橋市) 宇都宮浄人氏(関西大学)、佐藤主光氏(一橋大学) 小美野智紀氏((株)ドーコン)
≪新型コロナウイルス感染症に伴うシンポジウム開催への対応について≫ 予防対策として定期的な換気・アルコール消毒の実施等を行います。 手洗いやマスク着用等にご協力下さい。	

【開催のねらい】

- 共同経営方式の手法と期待効果  
熊本市のバス5社による共同経営の準備は順調に進み、全国的なモデルケースとなろうとしている。岡山の両備グループ、前橋市のバスグループ(6社)へと取組みが拡がり、今後の経営手法として期待されている。
- 新しい運賃体系を生かした需要の創出  
在宅勤務・時差出勤等の拡大の中で、従来の運賃制度に捕らわれない変動運賃などのプライシングが議論されている。新しい時代の公共交通は、ピーク時に頼らないビジネスモデルの模索やまちづくりと一体となった運賃制度で、新しい需要の開拓などが期待されている。
- 新しい技術を取り込んだ新しい移動サービスの活用  
需要が低密度な地域で、従前からの路線バスサービスの存続に拘らず、地域のニーズと財政事情にあわせて、適材適所のかたちで、自動運転や配車管理ソフトウェアなど新しい技術の社会実装に基づいて、オンデマンド交通やライドシェアリングなどの新しい移動サービスを導入して、環境にやさしく、地域の財政持続性や社会包摂などの課題に対応していく、持続可能な地域と交通が実現していくことが期待されている。
- 新しい財源の開発による公的助成の充実  
国の補助や自治体の一般財源からの助成には限界が出てきているので、自治体が公共交通機関を維持するための目的税を設けて負担を分かち合うという方法の検討(滋賀県税制議会答申2021.4)が始まろうとしている。公共交通の維持費を利用者と地域で負担する取組みとなる。
- [参考] 需要(利用)の開発手法(ニーズからウォンツへ)  
これまでは需要予測を過去のデータ等に基づくニーズ調査で行われてきた。ポスト・コロナ禍の公共交通の需要を開発するためには、市民のウォンツ(本音の声・利用意向)を探って交通サービスを開発することが必要となっている。東京・武蔵野市ムーバスの計画策定の調査手法は参考にできるのではないかと。